

## キリストのからだとしての召会のビジョン、実行、建造

(金曜日——夜の部)

メッセージ 6

### 召会生活の実行における極めて重要な経験 (3)

どのようにして一人の新しい人の中で、実行の面で召会生活を実際化するか

聖書：エペソ 4:1-3. I テモテ 1:3-4. エペソ 2:15. ローマ 15:6. I コリント 1:10

- I. 神の召しにふさわしい歩みの第一の項目は、わたしたちがその霊の一を保つことを熱心に努めなければならないということです (エペソ 4:3)。この一はすでにわたしたちの内側にあるので、それに到達したり、それを獲得したり、受け入れたりする必要はありません。今日わたしたちが必要とするのは、すでに獲得しているものを保ち、守り、維持することです：
- A. 電流が電気そのものであるように、その霊の一はその霊ご自身です。わたしたちが主イエスを信じたその時、このすばらしい、無尽蔵の霊は、一としてわたしたちの中へと入って来ました。
  - B. I ヨハネ第 3 章 14 節から 15 節が示しているのは、兄弟に対する愛が、わたしたちが永遠の命を内側に持っていることの証明であるということです。ですから、真の一は、わたしたちの内側にいますその霊です。
  - C. あらゆる真のクリスチャンはこの一を持っています。この一は生ける主ご自身、すなわちわたしたちの内側のすばらしい、すべてを含む、命を与える霊にほかなりません (II コリント 3:17. I コリント 15:45 後半)。今やわたしたちが必要とするのは、この一を受け入れたり獲得したりすることではなく、努力し、奮闘し、苦闘してその一を保ち、維持し、守ることです。
- II. エペソ第 4 章 1 節から 3 節の五つの語句は、一を保つ実行上の道をわたしたちに与えます。それは、「謙虚」、「柔和」、「辛抱強さ」、「愛の中で互いに担い合い」、「平和の結合するきずな」です。この五つの項目は、召会生活の実行における、わたしたちに対するテストです。このテストによって、わたしたちは実行上、召会生活の中にいるかどうかを見ることができます：
- A. わたしたちは他の人に対してさらに高い標準を設定すべきではなく、謙虚に、弱い人を愛すべきです：
    - 1. キリストご自身以外のものをわたしたちの標準とする限り、わたしたちは謙虚ではありません。もしわたしたちが高い標準を定めるなら、思いと態度においてへりくだっていません。
    - 2. どれほど良く、天的で、霊的であっても、それがキリストご自身以外のものである限り、分裂をひき起こします。
    - 3. 弱い者、若い者、後退した者は、主にある愛をさらに必要とします。彼らを愛することは、彼らの大部分の問題を解決します。そうでないと、わたしたちは謙虚からではなく傲慢から、高い標準を設定するでしょう。
  - B. わたしたちは自分自身を犠牲にし、態度が柔和でなければなりません——民 12:3.

マタイ 5:5 :

1. 「柔和」のギリシャ語は、温和、優しさ、利己的でないことを暗示します。
  2. 柔和は利己的でない態度であり、温和で優しく、決して自分自身のために議論せず、決して自分自身のために言い訳をしません——参照、歴代下 1:10. コロサイ 2:2-3. ピリピ 4:5. 民 12:3.
  3. わたしたちは柔和であるために、どのように扱われても、自分自身を犠牲にしななければなりません。また召会生活の中でわたしたちは、厳しく、険しい、冷酷な態度を取ってはなりません。
  4. わたしたちは正しい態度を取るために、利己的であってはなりません。利己的でないことは柔和、温和、優しさを生み出します。
  5. 多くの地方召会で、問題の大部分は、間違っただ、不注意で、冷淡で、厳しい態度から来ます。サタンは常に不注意な態度を用いて召会を攻撃します——エペソ 6:16.
  6. わたしたちは召会生活を持つために、召会生活が粗雑ではなく、とても細やかであることを学ぶ必要があります。予表によれば、召会は団体の穀物のささげ物、きめの細かい小麦粉でできた輪型の平らなパンです——レビ 2:1-5. I コリント 10:17.
- C. 辛抱強くあるとは虐待を耐え忍ぶことです。辛抱強くあることはおもに、わたしたちの語る言葉と関係があります :
1. もしある兄弟がわたしたちを悪く扱っても、主の栄光のために、また召会生活のゆえに、わたしたちはそれについて一言も語るべきではありません。わたしたちに起こるあらゆることについて述べ、発表し、話すことは、何の辛抱強さも忍耐も必要としません。
  2. わたしたちは、導いている兄弟たちが言い争っているのを見ると、直ちに行ってこれを別の兄弟に述べるかもしれません。しかしわたしたちが学課を学んでいるなら、主の栄光のために、また彼の召会のゆえに、一言も言わないでしょう。
  3. わたしたちはそのように正しく自分の言葉を守ることを学ぶなら、召会生活の中での「苦難」という言葉の真の意義を認識します。
  4. メッセージが与えられた後、わたしたちは直ちに語る人を批評し始めるかもしれません。しかしわたしたちが学課を学んでいるなら、どのように感じても、召会生活の実行のゆえに、務めについて消極的なことを何も言いません。わたしたちの口は聖霊の管理の下にあります。
  5. わたしたちの語ることや会話は他の何よりも召会を破壊します。ある物語が第二の人に伝わるなら、変わり始め、最後には大きな誇張となり得ます。うわさは常にこのようです。
  6. わたしたちは辛抱強さの学課を学ぶために、自分の口を抑制し自分の舌を制止する苦難を経験する必要があります。わたしたちは多くの事を見聞きしても、聖霊の油塗りと導きなしに言葉を語るべきではありません。そうすれば、召会生活は破壊から守られます。
- D. わたしたちは召会生活の中で、愛の中で互いに担い合うために、疑いや恐れに抵抗

して戦う必要があります：

1. わたしたちは疑いや恐れではなく、ただ愛だけを持つべきです。愛は召会生活の中で効能に満ちています。召会生活の中で、わたしたちが何であり何を行なうためにも、愛は最も卓越した道です——I コリント 12:31 後半。
2. 兄弟に対して疑いを持つことは、わたしたちの愛が去ったことを意味します。疑いの後、恐れが続きます。I ヨハネ第 4 章 18 節は言います、「愛には恐れがありません。完全な愛は恐れを追い出します」。
3. わたしたちに対する他の人の態度を知り、彼らがわたしたちをどのように考えているか、わたしたちについて何を言っているかを知らうと、わたしたちは常に誘惑されます。わたしたちは召会生活を実際化するために、この誘惑を拒絶しなければなりません——参照、伝 7:21-22。

E. わたしたちは平和の結合するきずなの中で、その霊の一を保つことを熱心に努める必要があります：

1. もしわたしたちが神と平安を持つだけで、すべての兄弟と平安を持っていないなら、召会生活を失っています。
2. わたしたちが持つ平安によって、召会生活はテストされます。この平安は、神との垂直の平安だけでなく、すべての兄弟たちとの水平の平安でもあります。
3. わたしたちはだれとも過度の関係を持ったり、関係に不足したりすべきではありません。平和の結合するきずなは、召会における均衡の取れた関係です。

III. わたしたちはエペソ第 2 章 15 節の「一人の新しい人」を、ローマ第 15 章 6 節の「一つの口」と、I コリント第 1 章 10 節の「同じ事を語り」と共に考える必要があります：

- A. 一人の新しい人としての召会のために、わたしたちはみな語る事柄において、キリストをわたしたちのパーソンとする必要があります——マタイ 12:34-37. エペソ 3:17 前半. ヨハネ 7:16-18. 8:28, 38 前半. 12:49-50. 14:10。
- B. 全聖書は一つの口を持ち、同じ事を語っています——ヘブル 1:1-2 前半。
- C. 今日のキリスト教には多くの口があり、各自は異なる事を語っています。あらゆる宣べ伝える者が自分自身の事を語ることを願い、他の人が語った事を語るのは恥と考えることは、あわれな状況です——創 11:7, 9。
- D. 過去あまりにも多くの口があったのは、あまりにも多くのパーソンがいたからです。
- E. 一人の新しい人の中では、一つの口があって、同じ事を語ります——ローマ 15:6. I コリント 1:10。
- F. ただ一人の新しい人があり、一人の新しい人にはただ一つのパーソンがあるので、一人の新しい人は一つの口で語り、同じ事を言います。
- G. 「一つ思いをもって」と「一つの口で」は（ローマ 15:6）、たとえわたしたちが数が多く、すべてが語っていても、みな「同じ事を語る」ことを意味します（I コリント 1:10）：
  1. 召会一人の新しい人であり、ただ一つのパーソン（キリスト）を持っており、このパーソンはわたしたちの語ることを支配します。ですから、彼が語る事は何であれ、必ず「同じ事」です。

2. わたしたちは語ろうとするとき、基本的な問題を解決する必要があります。すなわち、この語る事柄において、わたしがパーソンでしょうか、それともキリストがパーソンでしょうか？
  3. わたしたちは語ることに、自分自身をパーソンとしないで、キリストにパーソンとなっていていただくなら、一つの口があり、あらゆる人は同じ事を語ります。
- H. 一人の新しい人にはただ一つのパーソンがあり、このパーソンだけに語る自由があります——マタイ 17:5 :
1. 一人の新しい人の中で、わたしたちが自分自身の事を語る自由はありません。
  2. 主イエスには絶対に語る自由があり、わたしたちの天然の人には絶対に語る自由がありません。
- I. わたしたちは数が多く、多くの場所から来ていても、みな一つの口を持っており、みな同じ事を語ります。これは、わたしたちがみな一人の新しい人であり、ただ一つのパーソンを持っているからです——エペソ 2:15. 4:22-24. 3:17 前半. ローマ 15:6. I コリント 1:10。
- J. わたしたちはキリストをかしらとして保持する（キリストだけがかしらであり、絶対に彼の権威に服従することを承認する）なら、聖書の異なる解釈を持つことはできません—— I テモテ 1:3-4. コロサイ 2:19 :
1. 異なる事が生じるのは、だれかがかしらを保持していないときです。なぜなら、キリストは一つの事を一人の肢体に語り、別の事を別の肢体に語ることはできないからです。
  2. キリストはからだの中で唯一の権威です。すべての肢体の地位は、かしらを保持し、すべての事で彼を唯一、絶対の権威として承認することです。
- K. 一種類の務めだけが人を建造し、決して分裂させません。これは神のエコノミーの唯一の務めです—— I テモテ 1:3-4 :
1. 「人の高ぶりは、常に自己を他の人と異ならせることを好みます。あなたは一つの事を語りますが、わたしは自分の高ぶりのゆえに、あなたが語ることを決して語ろうとしません。わたしはあなたが語ることは異なる事、新しい事、さらに良い事を語りたいのです。これは自己であり、これは肉的な高ぶりです」（「神聖なエコノミー」、第 14 章）。
  2. わたしたちが一人の新しい人のために永遠の一の中に守られることができる唯一の道は、同じ事、すなわち神のエコノミーを教えることです——ローマ 15:6。